

石田三成書状 (天正 19 年 9 月 22 日)

四七〇 石田三成書状 伊達家文書

猶以^(神書)、家并矢倉之儀、念を入、不損様申付候、此方^(三カ)可相届との御内々候者、^(以下行間書)無御隔心、御報^(三カ)可承候、以上、

内々此方^(三カ)可申入処、御折昏本望之至候、御^(三カ)所勞如何、無御心元候折^(三カ)節、預恩問候、仍拙者儀、氣仙・大原両城之儀、普請出来、則任御理、最前方被付置兩人^(三カ)相渡、彼地在陣之衆、明日辺可罷出之旨申付、「拙者迄爰元へ、今日罷出候、最前方度々雖^(三カ)御理候、彼両城御留守^(三カ)居少^(三カ)付而者、何迄成共、「不寄五百千、人数可残^(三カ)置^(三カ)之旨申付候、但御手前^(三カ)被差置候物主衆^(三カ)被申様次第、可随其之旨^(三カ)堅申付候、随而当地家共、「岩手沢之地へ可有御引^(三カ)之由、尤候、当地之儀者可令^(三カ)破脚^(三カ)之旨、從中納言殿任^(三カ)御理之旨、立木壁儀者^(三カ)扨申候、於家之儀者、不損^(三カ)様可申付候、御手前御普請^(三カ)人遣於無之者、彼家之事^(三カ)こほち、何之地迄成共、為此^(三カ)方人数相届可進候、無御^(三カ)隔心可承候、猶御使迄^(三カ)申含候間、可為演說候、恐惶^(三カ)謹言、

石田治部少輔

天正十九年 九月廿二日 三成 (花押)

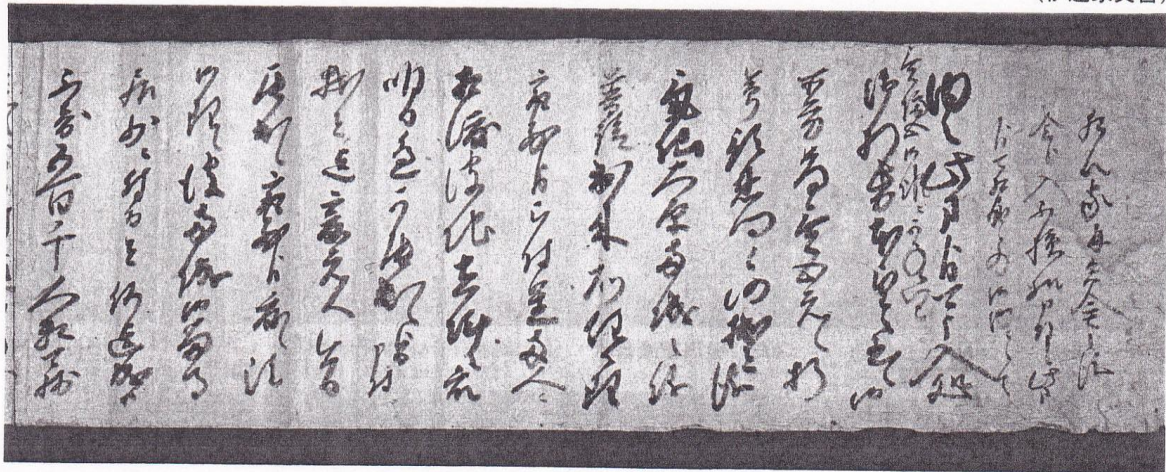
政宗様 御報

〔解説〕『大日本文書』一六二二号。楮紙。タテ一六センチ、ヨコ一〇〇センチ。切紙二紙貼り継ぎ。旧葛西領の石田による仕置の有様が分かる。

出典：『石巻の歴史 第八巻 古代・中世』平成四年四月 石巻市

写真 106

(伊達家文書)



470 石田三成書状 (天正十九年) 九月二十二日

写真 107

(同上)

